

2010（平成 22）年度 在宅医療助成指定公募

「ケアマネジャーを対象とした在宅医療の研修」完了報告書

「ケアマネジャーを対象とした在宅医療の研修」

サブテーマ：（メンバー相互研修グループビオラ YCM 活動の 1 年）

（申請者名）

横溝 左文

（所属機関・職名）

ビオラ市ケ尾地域ケアプラザ居宅介護支援事業所 介護支援専門員

（所属機関所在地）

〒225-0024

神奈川県横浜市青葉区市ケ尾町 25-6

TEL：045-308-7081 FAX：045-308-7082

（提出年月日）

平成 24 年 2 月 28 日

1. 助成申請目的

(1) 背景

ビオラ YCM は平成 22 年 3 月発足した地域で活動する介護支援専門員 4 人から発足した福祉保健従事者の集いである。構成メンバーは介護支援専門員、鍼灸マッサージ士、福祉用具相談員、訪問介護員、生活相談員等である。また活動開始後メンバーに介護支援専門員資格試験合格者も出ている。活動は月 1 回、定例会を地域ケアプラザを会場とし自主勉強会を継続している。そもそも申請者がサービス事業所同士として担当者会議等に関わるうちに「異業種の仲間達の見識と人柄の深さ」に驚き声をかけたところから始まった。

実際私たちは毎日の仕事や生活に追われ、それぞれの立ち位置（職種）だけの活動であり、知識の啓発の機会があまりにも少ないと感じた。また当の私たち介護支援専門員も研修は多いものの、自分の周りの小さな疑問の解決もままならぬのが毎日の生活であると痛感した。この仲間の能力の啓発と発表の場として、肩の凝らない研修の場を作りたい、と提案型研修を平成 22 年度に 4 人の顔合わせから始めた。平成 23 年を迎えるに当たり、今後の会の存続を考えた時に「医療」との連携をテーマに外部講師招聘研修と提案型研修を組み合わせて行いたいと考え、活動資金の調達目的が合致した勇美財団の助成に手を上げた次第であった。

(2) 企画

助成を申請する時点から研修会の都度、メンバーに報告。また(1)背景にも記述したが、今回の助成を受け 1 年間取り組むために下記の目的を持って企画した。

- ① 保健福祉従事者と表しても職種や資格、年数により知識の習得が異なる。
- ② 発起人が研修担当を兼ねた昨年よりは組織体制を整える。

これらから

- ③ 自発性を引き出すために年間計画を立て、手上げ方式で研修日程、内容を埋める。
- ④ 講師をなるべく身近な地域の専門家、医療従事者に依頼し、引き続き今後も連携を取る事を目的とした。
- ⑤ 地域包括支援センター共催による研修会の検討

(3) 予想される効果

研修中の発言を通し、一人ひとりが自らの職種の視線と他職種の視線の違いをそれぞれに**客観的に認識する事**、先ずこれを身につけることを想定。これを第一歩とし、医療従事者の視線、思考の違いをそのままに受け入れる姿勢を形成することを期待した。また会社や職種も違う人との集いにより仲間意識を育て仕事、人生をより多面的に思考することも期待とした。特に 4/21 年間研修内容について、希望を聴取し提案を行った。

2. グループ構成人と役割

代表者	横溝
副代表・経理担当	鍼灸マッサージ士（独立型・経営者）
研修担当<申請者>	横溝
記録担当	介護支援専門員（独立型・経営者）
参加者	介護支援専門員（4人） 施設ケアスタッフ（1人） 訪問介護員（1人） 社会福祉士（1人） 生活相談員（1人）

3. 研修内容の検討

2.企画にも記述されているが、下記を重点項目とし検討した。

- ① 自発性を引き出すために年間計画を立て、手上げ方式で研修日程、内容を埋める。
- ② 講師をなるべく身近でかつ評価を得ている地域の専門家、医療従事者に依頼し、引き続き今後も連携を取る事を目的とした。
- ③ 地域包括支援センター共催による研修会の検討

研修会の内容は私申請者の発案や周りの情報を拾い検討、実践している。今年は震災があり、秋には台風上陸にて研修中止もありと日程や内容に変更が出ている。

4. 研修会年間計画

*①～⑥印が助成事業/外部講師招聘

4/21	5/19	6/16	7/21	8月	9/22
アロマの魅力 (K)	レインボー体操 (I)	*① 生活環境に 見られる菌	*② あせらないで ABC+AED	交流会 (中止)	耳の老化と予防 (台風にて中止)
(打ち合わせ)	震災ボランティア活動 を通して (Y)	(講師:真菌研究センター 研究員)	(講師:地域包括支 援センター看護師)		

10/20	11/17	12/8	1/18	2/21	2/27
*③ 障害者・高齢者 対応住環境 (講師:1級建築士)	難ケース?は 何ケース(対象 者像をイメージし よう) (A・横溝)	懇親会	*④ 耳の老化と予防 (講師:耳鼻科医)	*⑤ 権利擁護と 成年後見制度 (講師:司法書士)	*⑥ 事例検討会 (精神疾患との関 わり) (講師:大学院講師)

公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団の助成による

5. 研修の内容

① テーマ： ＊「生活環境に見られる菌」

会 場： ビオラ市ケ尾地域ケアプラザ 研修室

講 師： 石島 早苗医学博士

参加者： 12人

日 程： 平成23年6月16日（木） 19:00～20:30

- ・「帝京大学真菌研究センターの紹介」
- ・「微生物の種類と感染症」
- ・「生活の中にある菌、パン酵母菌、カンジダ菌、白癬菌、納豆菌」
- ・「人体各部の常在菌」「老年医学の基礎」
- ・「感染症各論」

② テーマ： ＊「あせらないでABC+AED」（リトルアン及びAEDをレンタル）

会 場： ビオラ市ケ尾地域ケアプラザ 多目的ホール

講 師： 中武看護師（ビオラ市ケ尾地域包括支援センター）

参加者： 31人（17人/AM・14人/PM）

地域住民、介護支援専門員、地域福祉保健従事者、施設ケアスタッフ

日 程： 平成23年7月21日（木） 10:00～11:30 13:30～15:00

- ・ 「AEDを利用した救命処置の方法～強く・早く・絶え間なく～」

③ テーマ： ＊「障害者・高齢者対応住宅改修」（プロジェクター使用）

会 場： ビオラ市ケ尾地域ケアプラザ 多目的ホール

講 師： 神奈川県「H22年度住まいのバリアフリーリフォームコンクール」

「登録施行事業者奨励賞」受賞

畠山 正弘一級建築士

参加者： 11人

日 程： 平成23年10月20日（木） 19:00～20:30

- ・ 「一般リフォームと高齢者・障害者対応住宅改修との違い」
- ・ 「幼児のため住環境整備」
- ・ 「様々な助成制度」
- ・ 「家に入るための改修事例」
- ・ 「転倒防止の為に手摺の設置」
- ・ 「介護保険住宅改修」

公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団の助成による

- ④ テーマ： ＊「耳の老化と予防」
会 場： ビオラ市ケ尾地域ケアプラザ 研修室
講 師： 辻 富彦（つじ耳鼻咽喉科クリニック院長）
参加者： 15人
日 程： 平成24年 1月18日（水） 19:30～20:45
- ・ 「疾病＝体質×環境／遺伝子によるものが大きい」
 - ・ 「遺伝性難聴・加齢性難聴とミトコンドリア」
 - ・ 「突発性難聴について」
 - ・ 「骨伝導集音器・補聴器について」
- ⑤ テーマ： ＊「権利擁護と成年後見制度」
会 場： ビオラ市ケ尾地域ケアプラザ 多目的ホール
講 師： 佐藤 秀樹司法書士（司法書士 佐藤 秀樹 事務所）
参加者： 42人
日 程： 平成24年 2月21日（火） 13:30～15:30
- ・ 「司法書士の仕事とは」
 - ・ 「リーガルサポートの活動概要」
 - ・ 「成年後見制度の理念と人権擁護」
 - ・ 「成年後見制度の種類と概要」
 - ・ 「任意後見制度の概要・任意後見の適する方・手続き」
 - ・ 「事例とまとめ」
- ⑥ テーマ： ＊「事例検討会」（精神疾患との関わり）
会 場： ビオラ市ケ尾地域ケアプラザ 研修室
講 師： 國光 登志子（日本社会事業大学専門職大学院非常勤講師）
参加者： 22人
日 程： 平成24年 2月27日（月） 13:30～16:30
- ・ テーマ：「夫婦共に精神疾患を抱えている夫婦の今後の支援」
 - ・ 「妻／提出様式1・2・3」「詳細記録」「経過記録」
 - ・ 「介護予防サービス支援計画書」
 - ・ 「夫／提出様式2」「介護予防サービス支援計画書」

公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団の助成による

6.研修会の効果

研修会のアンケートを実施し、満足度について調査した。

- *① ・菌についてかなり深い知識を理解しやすいと実感した。
 - ・微生物学の歴史から種類、感染症、予防まで幅広い内容でした。発表では写真や図表などが多く用いられて解りやすかった。身近にたくさんの菌と一緒に過ごしていることがよく理解できました。また高齢者は特に口腔内洗浄、入浴、体位変換等の日頃の身体ケアが重要だと理解できた。
- *② ・参加者全員が AED を操作できたので実際に使用するときは焦らず対応できると思います。
- *③ ・疾患や進行状況に対応するやさしい住環境の提供に感銘を受けた。第二弾期待。
 - ・実際の研修事例をたくさん見ることができて勉強になった。
- *④ ・日頃身近に接する事の多い難聴や補聴器、耳鼻咽喉科医療の現状に関して分かりやすく丁寧な講義が大変聞きやすかった。
 - ・専門的な医療分野ですが、医師から弾みのある解りやすい講義をいただき充実した学びができました。ありがとうございました。
- *⑤ ・権利擁護や成年後見制度はその言葉の響きと同じようになかなか素人には理解しにくいものである。しかし講師よりこの分野は繰り返し用語と触れるうちに理解できるものであるとの言葉があった。今後も機会を見つけ、研修に参加したいと思う
- *⑥ ・対応の効果の薄さや家族の対応に時間を費やしている自分の仕事と重なった。講師の姿勢に安心と励ましを特に感じ、明日からの仕事へのパワーを受け取った。

7.まとめと感想

① *6/16 「生活環境にみられる菌」受講者の感想

ハンドインハンド横浜訪問リハビリセンター

(受講生) 鍼灸マッサージ師 喜古 尚美

勇美記念財団助成研修会「生活環境に見られる菌」に参加して

私は、医療訪問マッサージを行う鍼灸マッサージ師として患者様の治療、リハビリにあたっております仕事上患者様の皮膚の異常に接する事も多く、身近に存在する菌については以前より興味がありました。特に白癬については、足だけでなく、拘縮し硬く握った手にも爪白癬を持つ患者様も担当させていただいており身近な問題でした。菌の感染の過程や対処方法を知ることによって他の患者様や自分への感染への防止に翌日から役立ち、しっかりと意識し、実行しております。また、以前アロマセラピーを学んだこともあり、抗菌効果があるエッセンシャルオイルも紹介していただきさらに興味が増しました。学会誌アロマトピアも興味深く拝見いたしました。今回勉強会に参加し身近な菌の存在と対処を学べた事は大変有意義でした。マッサージ師という患者様のお体に直接接触する身として、今後も抗菌の意識を高めて生きたいと思っております。

公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団の助成による

② *7/21 「あせらないで ABC+AED」講師の感想

ビオラ市ケ尾地域包括支援センター

(講師) 看護師 中武 展子

勇美記念財団助成研修会 「あせらないで ABC+AED」実習講師を担当して

- ① 救急蘇生 ABC の説明を行う
- ② 人形を使い、救急蘇生方法 ABC+AED の実践をしながら説明を行う
- ③ 2 グループに分かれて、1 人ずつ実習を行う

◇ 所感

- ・ 参加メンバーは介護現場で働いて以前にも実習に参加した経験者から、全く初めての地域住民まで幅広い集まりであった。やはり経験者は基本は出来ていた。全く初めての方はぎこちなかったが、少しずつ慣れてきた様子であった。
- ・ シートを開催者側で準備したが、経験少ない女性は口対口人工呼吸時、息を吹き込む量が少量であったりまた一気に吹き込むと言うタイミングの習得が困難であったりとなかなか規定量まで吐き出すことが出来ない場面が多く見られた。
- ・ 実習の方法は人形 2 体で 2 グループに分けて実施した。これにより 1 人ずつ時間に余裕があり、2・3 度人形に向き合う循環をメンバーで作っていた。
- ・ 講師が一人であったため、ゆっくりと指導することは出来なかったが、グループ内メンバーがそれぞれに指摘しあいながら実習が進行していた。
- ・ いつ緊急蘇生が必要な場面に出くわすかわからないので、いつでも慌てずに施行出来るように、このような実習は定期的な持つと行う必要性を再認識した。

④ *2/21 「権利擁護と成年後見制度」研修企画者の感想

ビオラ市ケ尾地域包括支援センター

(企画) 社会福祉士 佐藤 みゆき

勇美記念財団助成研修会「権利擁護と成年後見制度」に参加して

権利擁護研修の一環として、「成年後見人について」を取り上げ、成年後見人業務を受任している司法書士を講師として研修を行った。内容は成年後見人について概略、任意後見人について、後見人就任後の業務、在宅・施設における事例紹介とした。対象者が施設介護職員、生活相談員、保健師、施設・在宅ケアマネジャー、管理栄養士、社会福祉士、民生委員と広範囲にわたった為、各々の知識に差がみられるとの見地から、1 時間 30 分の講義時間のうち、成年後見人の概略についての説明に時間をかなり使ってしまった。その為、事例紹介の時間があまり取れなかったのが、反省点と言える。アンケート結果によると、後見人就任後の業務や任意後見人についての講義内容に反響が多かったことも考えると、成年後見人についての概略は殆どの出席者が知識として入っていることがうかがわれた。

公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団の助成による